



コントロールハブでの同期されたユーザアカウントの管理

- [増分同期の実行](#) (1 ページ)
- [誤って削除したユーザの復元](#) (2 ページ)
- [論理削除後のユーザーの完全削除](#) (4 ページ)
- [Webex アプリ 電子メールアドレスの変更](#) (4 ページ)
- [Active Directory ドメインの変更](#) (6 ページ)
- [ドメイン要求](#) (6 ページ)
- [ディレクトリが同期された組織で無料の Webex アプリ ユーザを変換](#) (7 ページ)
- [サイドボード Webex アプリ ユーザアカウント](#) (8 ページ)
- [ディレクトリ Webex アプリ 同期後のユーザ名形式の変更](#) (8 ページ)
- [ユーザーによる Webex Meetings での表示名の変更を許可](#) (10 ページ)

増分同期の実行

増分同期では、Active Directory に対してクエリが実行され、最後の同期以降に発生した変更が検索されます。この手順によって、これらの変更がバンドルされ、コネクタサービスに送信されます。変更には、ユーザ属性の変更、ユーザの追加または削除が含まれます。

この同期は、サーバに負荷をかけず、完全な同期として時間がかかりません。最初の完全同期を実行した後、後続の同期のための増分オプションを推奨します。

始める前に

- Active Directory から同期した新しい Webex アプリ ユーザに対して使用する前に、[自動割り当てライセンステンプレートを設定](#)する必要があります。
- 差分同期ではサポートされない次の [Active Directory ユーザとクラウドの完全同期を実行する](#) 例外に注意してください (代わりに次のようにしてください)。
 - アバターが更新され、その他の属性が変更されない場合、差分同期ではユーザのアバターがクラウドに更新されません。

- 属性マッピング、ベース DN、フィルタ、およびアバター設定の新しい設定変更については、差分同期は機能せず、完全同期が必要です。

手順

ステップ 1 ディレクトリ コネクタで、[**ダッシュボード (Dashboard)**] をクリックします。

(注) 同期を有効にすると、ディレクトリ コネクタ は最初にリハーサルを実行するように求められます。

ステップ 2 [**Actions**] で、[**synchronization Mode >**] をクリックします (まだ有効になっていない場合)。

デフォルトでは、増分同期は30分ごと (バージョン3.4 以前の場合) または4時間ごと (バージョン3.5以降) に設定されますが、この値は変更できます。差分同期は、最初に完全同期を実行するまで発生しません。新しい増分時間間隔がアップの場合、プログラムは最後のタイムスタンプに基づいて変更を確認します。

ステップ 3 [**Actions**] で、[**Sync Now > 差分**] をクリックします。

Active Directory でユーザーに対して行った変更 (たとえば、表示名) については、ユーザービューを更新すると Control Hub ではすぐに変更が反映されますが、Webex アプリ では同期の実行時から72時間後に変更が反映されます。

ヒント **Windows** または **Mac** のいずれかの指示に従って、Webex アプリ のローカルキャッシュをクリアすることができます。

- 同期中に、ダッシュボードに同期の進捗状況が表示されます。これには、同期のタイプ、開始時刻、同期が現在実行されているフェーズなどが含まれます。
- 同期後、最後の同期とクラウドの統計情報のセクションが新しい情報で更新されます。
- 同期中にエラーが発生した場合は、ステータスインジケータ ボールが赤色に変わります。

ステップ 4 エラーについては、[**アクション (Actions)**] ツールバーの [**イベントビューアの起動 (Launch Event Viewer)**] をクリックしてエラーログを表示します。

次のタスク

複数のドメインがある場合は、インストールしている他の ディレクトリ コネクタ インスタンスでもこの手順を実行します。

誤って削除したユーザの復元

ディレクトリ コネクタユーザの意図しない削除を防ぐために、チェックと残高があります。残念ながら、事故が発生しています。Active Directory で LDAP フィルタが誤って設定されている

可能性があります。これにより、クラウドとの同期時に一部のユーザが削除されました。ソフト削除機能は、これらの事故から回復し、コントロールハブでユーザアカウントを再確立するのに役立ちます。

デフォルトでは、この機能はすべての組織に対して有効になっています。ユーザがクラウドで削除された場合(たとえば、同期ディレクトリ コネクタ後のオブジェクトの問題が一致しない場合)、ユーザは回復できます。不一致のオブジェクト通知が表示された場合、またはユーザが削除されたことが判明した場合は、**fast** に行動すると、それらを回復することができます。



- (注) ユーザは、Active Directory で対応するアカウントが削除されると、Control Hub 内で非アクティブとしてマークされます。バックグラウンドクラウドサービスでは、ユーザは最大7日間保持されます。この期間中は、引き続きを使用Cisco Directory Connectorしてユーザを回復できません。これらのユーザはできるだけ早く回復することをお勧めします。

Active Directory で無効になっているユーザは、Control Hub 内で非アクティブとしてマークされますが、7日後にユーザアカウントが削除されることもありません。

手順

- ステップ 1** <https://admin.webex.com> のカスタマービューから、[ユーザ (Users)] に移動し、特定のユーザアカウントが非アクティブ状態であるか、またはリストされていないかを確認します。

詳細については、「[Control Hubでのユーザーステータスとアクション](#)」を参照してください。

- ステップ 2** ユーザがControl Hubで削除された場合、またはユーザが非アクティブ状態であることがわかっている場合は、Active Directory に移動し、欠落ディレクトリ コネクタしているユーザアカウントを追加してから、デリハーサル同期を実行します。

のディレクトリ コネクタ目的は、Active Directory とクラウド内のユーザ情報の間で完全に一致するものを作成することです。

- ステップ 3** 完全同期を実行して、一時的に削除されControl Hubたユーザアカウントをに再同期します。ユーザが回復し、アカウントのステータスとサービスの割り当てを含む元のステータスに移動します。

次のタスク

Control Hub に戻り、[管理 (Management)] > [ユーザー (Users)] の順に選択し、以前削除したユーザーアカウントが、ユーザーリストに表示されているか確認します。

論理削除後のユーザーの完全削除

予行演習を実行した後、次回の同期で論理的に削除されたユーザーを完全に削除することを選択できます。

手順

ステップ 1 予行演習が完了したら、[論理的に削除されたオブジェクト]を選択します。

ステップ 2 削除するユーザーの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [完了 (Done)]を選択します。

次のタスク

次回の同期で、チェックしたユーザーは完全に削除されます。

Webex アプリ 電子メールアドレスの変更

ユーザの電子メールアドレスを変更し、組織で使用ディレクトリコネクタしている場合は、Active Directory でこれらの電子メールアドレスを変更します。この手順では、1つWebex アプリのドメインの電子メールアドレスを変更する方法と、ドメインを変更するプロセスについて説明します。



注意 1人のユーザの電子メールまたは一部の値のみを変更する場合は、Active Directory からユーザを削除してから、同じ電子メールで新しいユーザを再作成してください。このクラウドは、このアクションをまったく新しいユーザアカウントとして解釈し、ユーザのスペースとクラウド内のその他のデータは失われます。

手順

- ドメインを変更せずにユーザの電子メールアドレスを変更するには:
 - a) Active Directory でユーザアカウント (例、user1@example.com) を開き、電子メールアドレス (例、user2@example.com) を変更します。
 - b) ディレクトリコネクタで同期を再開します。

次回の同期後、キャッシュが更新された後に、変更は、Control Hub のユーザーリストと Webex アプリ のユーザーに表示されます。



(注) この方法を使用すると、データやスペースが失われることはありません。ユーザの固有識別子は、最初の同期後にクラウドで設定されます。後続のすべての同期は、この id に基づいています。

- を使用してディレクトリ コネクタ複数のドメインを展開する場合は、ドメインを変更する際にユーザの電子メールアドレスを変更します(古いドメインを `example1.com` し、新しいドメインを `example2.com` することを検討してください)。
 - a) 古いユーザアカウント (`user1@example1.com`) については、uidクラウド属性にマッピングする Active Directory 属性に注意してください。この同じ Active Directory 値を新しいアカウントに使用する必要があります。この例では、`user1@example1.com` をオンプレミス属性として使用して、クラウド内のuidにマッピングします。
 - b) `Example1.com` および `example2.com` ドメインディレクトリ コネクタの同期を一時停止します。
 - c) `Example2.com` で新しいユーザアカウントを作成し、上記と同じ属性を使用します。(たとえば、`user1@example1.com`)。
 - d) でディレクトリ コネクタ、`example2.com` の同期を再開します。

続行する前に、`user1@example2.com` アカウントが Control Hub同期していることを確認します。でWebex アプリ 電子メールの変更を確認するようにユーザに指示し、すべてのデータ(スペース、メッセージ、会議、ファイルなど)が保持されるようにすることを推奨します。



注意 この方法を使用してデータまたはスペースが失われることはありませんが、新しいユーザアカウントでは、クラウド uid 属性にマッピングする Active Directory 属性が古いユーザアカウントから保持されていることを確認する必要があります。Active Directory の値を変更すると、新しいアカウントは古いアカウントのデータを保持しません。

- e) 電子メールアドレスの変更を確認し、データがそのままである場合は、`example1.com` で古いユーザアカウントをディレクトリ コネクタ削除してから、`example1.com` の同期を再開するために使用します。



(注) この時点で、`user1@example2.com` の新しい Active Directory ドメインの電子メールアドレスを安全に更新できます。

ディレクトリ コネクタ電子メールアドレスドメインの変更を制限しません。ただし、ユーザがクラウドに再同期すると、ユーザの状態は、組織内で新しいドメインが検証されたかどうかによって決まります。ドメインが組織内で検証されていない場合、完全同期後にユーザのステータスが [保留中 (Pending)] に変わります。詳細については、「[ドメインの管理](#)」を参照してください。

組織がディレクトリ コネクタ を使用しない場合、[アカウント設定ページ](#) から Webex アプリ E メールアドレスを変更できます。Eメールの変更手順に関しては、「[アカウントのEメールアドレスの変更](#)」を参照してください。

Active Directory ドメインの変更

この手順を使用して、新しいドメインと電子メールアドレスを作成できます。これらは、クラウド内のアイデンティティサービスと同期されます。

手順

- ステップ 1 新しい Active Directory (AD) ドメインを設定します。
- ステップ 2 すべてのコネクタで同期を無効化します。
- ステップ 3 すべてのコネクタをアンインストールします。
- ステップ 4 [ドメインを変更するには、ケースを開きます](#)。
- ステップ 5 ケースが解決されたら、次のようになります。
 - a) 新しい Active Directory コネクタ Directory ドメインと同じサーバにインストールします。
 - b) 新しい Active Directory ドメインをポイント指すように、ディレクトリ コネクタ を設定します。

Control Hub (<https://admin.webex.com>) に既存のユーザが存在する場合は、電子メールアドレスが一致するユーザが Active Directory にも存在していることを確認します。Active Directory に含まれていないユーザの電子メールアドレスは、ポータルから削除されます。

実際の同期を実行するディレクトリ コネクタ前に、でテストを実行します。

ドメイン要求

ドメインの要求は、組織の電子メールドメインを要求した場合に発生し、無料のコンシューマ組織ではなく、サイドボードアカウントが支払い済みの顧客組織で作成されます。ドメインの要求は、サポートケースを通じてのみ行うことができます (詳細については、次のリンクを参照してください)。

ディレクトリ コネクタがアクティブで、ドメインが要求されている場合、サイドボードアカウントは顧客組織または無料のコンシューマ組織では作成されません。のみがディレクトリ コネクタ、Active Directory から組織のアカウントをプロビジョニングする場合があります。Active Directory に保存されている情報は、元の送信元です。アカウントを作成しようとする、招待されたユーザはエラーを受信します。招待されたユーザを Webex アプリスペースに追加できる

唯一の方法は、ディレクトリ コネクタ最初を使用してアカウントをControl Hubにプロビジョニングすることです。

関連トピック

[ドメイン管理](#)

ディレクトリが同期された組織で無料の Webex アプリ ユーザを変換

ディレクトリでは、Webex アプリ一意の電子メールアドレスのみを使用できます。ユーザがのWebex アプリ無料版にサインアップしている場合、そのアカウントは無料のコンシューマ組織に存在します。を使用してディレクトリ コネクタこの組織のユーザを管理するにはディレクトリ コネクタ、をオンにする前に、それらを顧客の組織に移行(変換)する必要があります。その後、ユーザを正確な電子メールアドレスでActive Directoryに追加してから、クラウドに同期します。

有効化の前にアカウントを変換しない場合は、ディレクトリ コネクタをオフにして変換します。

ディレクトリ同期が有効になっているときにユーザを変換しようとすると、エラーメッセージ「<電子メールアドレス>を変換」できなかったことが表示されます。この問題を回避するには、次の手順を回避策として使用できます。



注意 一部の主張されたユーザーは、リハーサル時に movedfrom 属性を使用して表示される場合があります。これらユーザーは、MismatchedObject ではなく、Deleted Object リストに表示されます。これらユーザーを組織に移動する場合は、対象ユーザーをADリストに追加する必要があります。

対象ユーザーを追加しないと、次のクラウド同期時に対象ユーザーがすべて削除されます。

手順

ステップ 1 ディレクトリ コネクタからディレクトリ同期を無効にします。

ステップ 2 無料消費者組織から企業組織に変換するには、「[Control Hub でライセンスされていないユーザーの変換](#)」手順に従います。

この手順により、ユーザが組織に追加され、Control Hubアカウントがに表示されます。ディレクトリ コネクタ active directory をユーザアカウントの1つの真のソースにします。この目的は、active directory とControl Hubの間で完全に一致していることを意味します。同期を再度イネーブルにする前に、最近変換されたユーザのActive Directoryに一致するユーザが存在することを確認します。他の一致しないユーザがないことを確認するために、リハーサル同期を使用できます。

ステップ3 ディレクトリコネクタで、リハーサル同期を実行します。リハーサルが完了したら、[オブジェクトの追加 (Add Objects)] タブを確認します。変換したすべてのユーザが削除されていないことを確認します。

注意 同期を再度イネーブルにする前にリハーサルを実行して、変換されたユーザアカウントが **Active Directory** に表示されるようにする必要があります。同期をオンにし、アカウントのみが **Control Hub** 存在ディレクトリコネクタする場合、は大文字と小文字を区別し、一致しない電子メールアドレスで検出された変換済みユーザ (たとえば、`user1@example.com` や `User1@example.com`) を削除します。

変換されたユーザが削除されると、Webex アプリすべてのスペースが失われます。

ステップ4 次の同期でアカウントが削除されないことが確認されたら、からディレクトリディレクトリコネクタ同期を再度有効にします。

ドメインを確認していない場合、変換されたユーザアカウントは自動的にアクティブになりません。たとえば、自動割り当てライセンステンプレートをオンにし、ドメインを検証せずにディレクトリコネクタをオンにした場合、Eメールアドレスが確認できるまで、変換したユーザは、クラウドのバックエンドで非アクティブになります。

サイドボードWebex アプリユーザアカウント

のWebex アプリスペースに別のユーザを招待すると、招待されたユーザにWebex アプリアカウントがない場合は、そのユーザに対してアカウントが作成されます(「サイドボード」)。デフォルトでは、この方法で作成されたアカウントは、無料のコンシューマ組織に追加されます。

を使用してディレクトリコネクタサイドボードアカウントを管理する場合は、アカウントを**変換**する必要があります。

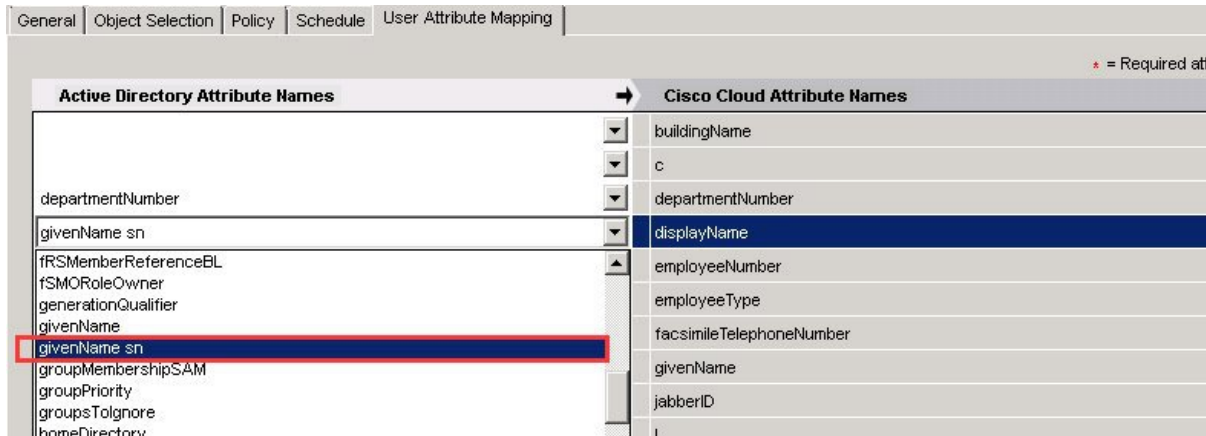
ディレクトリWebex アプリ同期後のユーザ名形式の変更

デフォルトではディレクトリコネクタ、は **Active Directory** の `displayName` 属性をクラウドの `displayName` 属性にマッピングします。

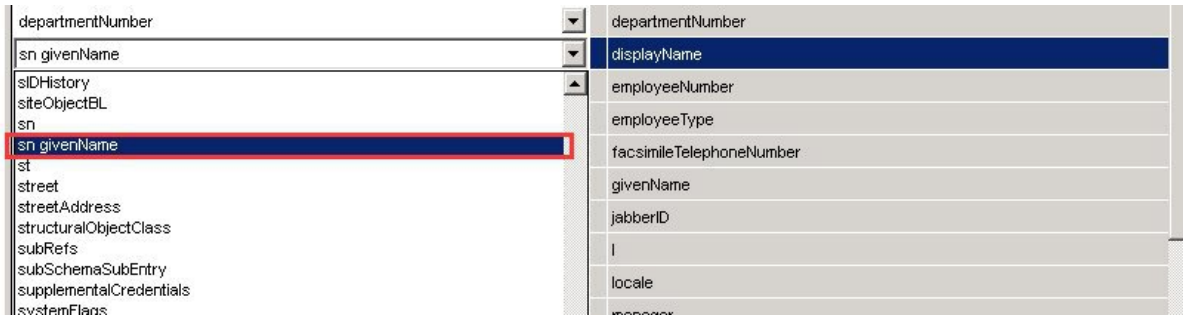
ディレクトリの同期を実行すると、ユーザ名が `<lastName, firstName>` の形式で表示されることがあります。

このユーザ名は、**Active Directory** の `displayName` 属性がそのように設定されている場合に表示されることがあります。属性がクラウドの `displayName` にマッピングされている場合、名前は `<LastName, firstName> in Control Hub` の形式で表示されます。

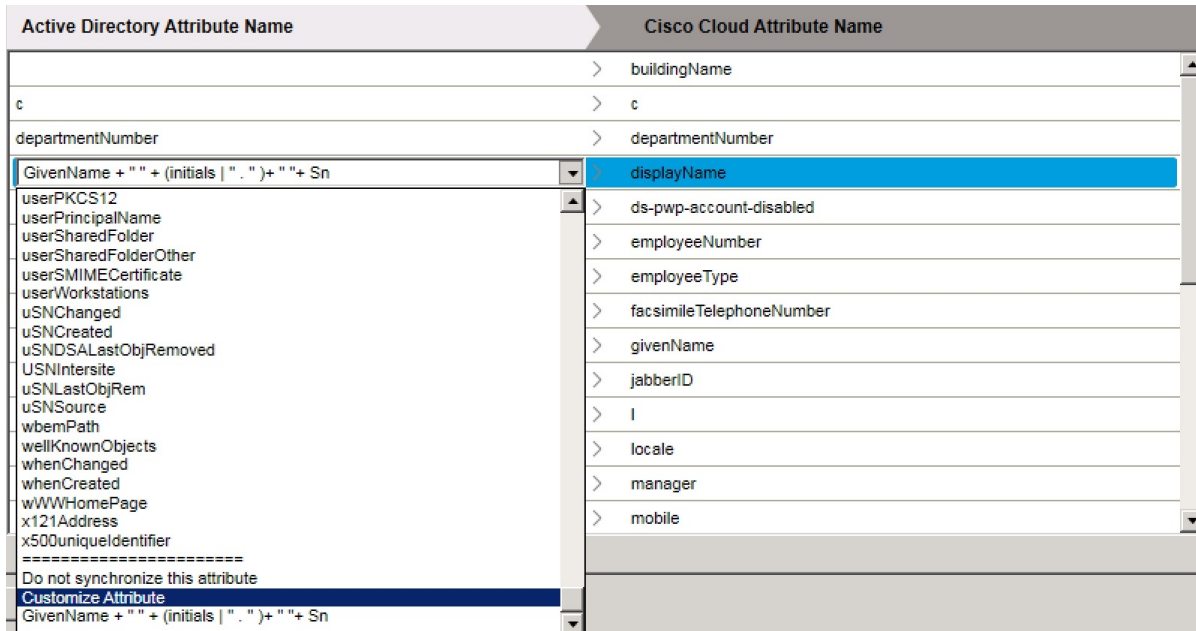
フォーマットを変更するには、ディレクトリコネクタ [属性マッピング (attribute mapping)] 画面で、**Active Directory** 属性 `givenName sn` (または `Sn GivenName`) を **Cisco Cloud** 属性名の `displayName` にマッピングします。



または、属性Sn givenNameをdisplayNameにマッピングします。

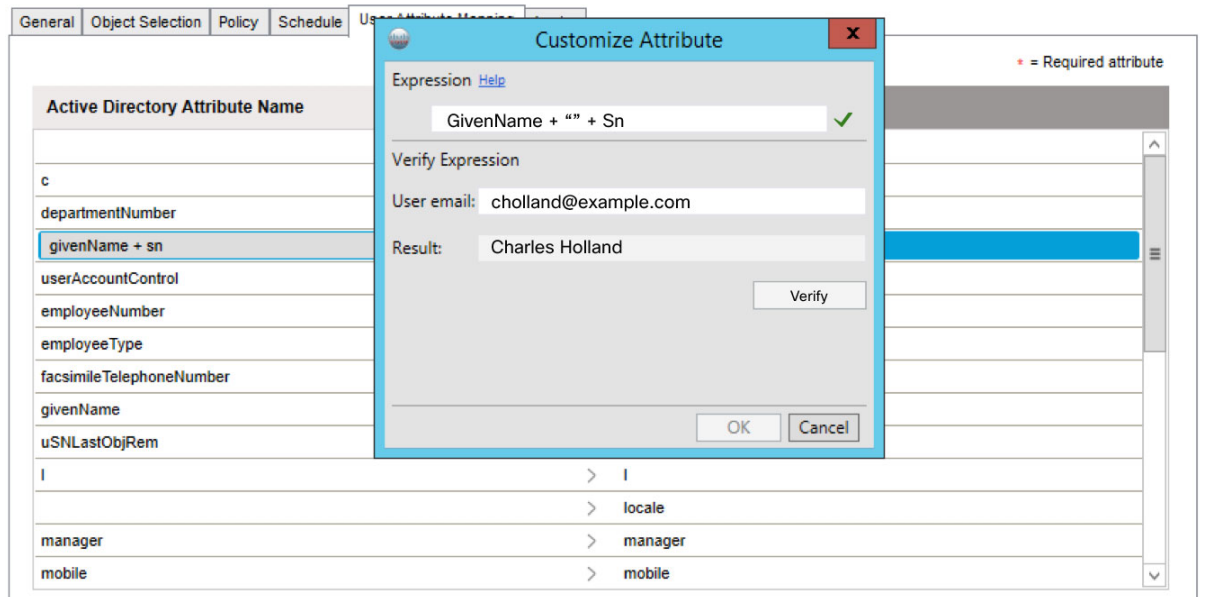


独自のカスタム属性式をdisplayNameにマッピングする場合は、[属性のカスタマイズ(Customize attribute)] オプションを使用することもできます。



ユーザーによる Webex Meetings での表示名の変更を許可

たとえば、givenName + " " + sn (名、スペース、姓) を式として入力します。これにより、Active Directory の2つの属性がクラウド内の displayName にマッピングされます。

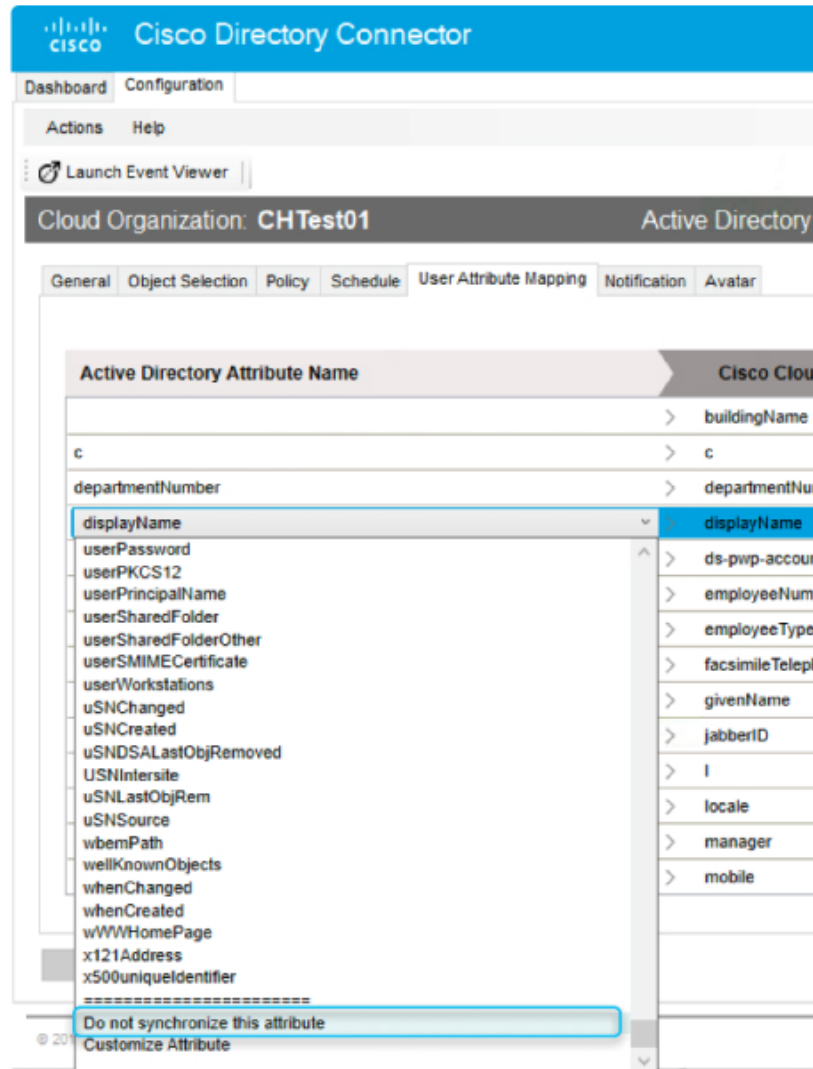


ユーザーによる Webex Meetings での表示名の変更を許可

ユーザーが好みの表示名を編集できるようにする場合は、displayName 属性をディレクトリコネクタのクラウドに同期しないようにできます。ユーザーは、姓名の代わりに Webex ミーティング中に表示する表示名を入力できます。管理者は、Control Hub でユーザーの表示名を手動で変更することもできます。

手順

- ステップ 1 からディレクトリ コネクタ、[**Configuration**] をクリックし、[**User Attribute Mapping**] を選択します。
- ステップ 2 [Cisco Cloud属性名 (Cisco Cloud Attribute Name)] で [displayName] を選択します。
- ステップ 3 [この属性を同期しない (Do not synchronize this attribute)] を選択します



次のタスク

これで、ユーザーは [Webex](#) サイトから表示名を編集できます。

■ ユーザーによる **Webex Meetings** での表示名の変更を許可

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。